



# 10・18第2回執行委員会②

## 所定行路内のその他時間は本当に必要なのか？！

(前号からのつづき)

各班からの報告により、その内容は各職場によって異なることが明らかになりました。

ここ数年来の会社施策同様、今回もきれいな外箱のみで、中身が入っておらず、現場任せという非常に無責任な施策であります。内容に関しては、各職場の社員自らの発案で実施されているものと思われます。

某職場では、駅と意見交換会を行い、駅からの要望（車椅子対応、線路内清掃、現金扱い等々）があり、それについてのアンケート調査が訓練内であった旨の報告もありました。

また、蘇我班長からは、職場内の若い人たちから集めた声を資料として配布されました。その中味は、ほとんどが不安や不満を訴えるもので、しかたな

くやってるというものです。こういった大勢の反対意見があり、私たち労働組合では廃止させようとしている中で、社員側が押し押しムードになっているのは、どうにもこうにもです。

駅社員にしても、自分たちの仕事を乗務員にやらせて、その先には自分たちの合理化が待っている・・・そんな頭もないのでしょうか。能天気過ぎます。

乗務員側も然りて、乗務前や途中で余計なことに神経を使って、安全安定輸送が守られるのでしょうか。1日も早く冷静に戻られることを望みます。

## うたてつ ノススメ⑧

### Never Marry A Railroad Man (Shocking Blue) 悲しき鉄道員 (ショッキングブルー) 1970年

訳詩 (概略途中から)

あなたにこれから  
良いアドバイスをあげるわ  
鉄道員なんかと決して  
結婚しちゃだめよ  
時には愛してくれるだろうけど  
彼の頭の中は新しい列車で  
いっぱいなのよ  
ダメよ！ダメ！ダメ！  
鉄道員なんかと決して  
恋なんかしちゃダメだって！  
恋したとしても出来れば  
彼のことなんか忘れて・・・

英語によるアメリカデビュー後、世界的な大ヒットとなった「ピーナス」で有名なオランダのバンド。ギターコードカッティングが特徴？中でも日本での人気は絶大で来日公演も果たし、そのライブ盤も製作・発売されている。原題の直訳は「決して鉄道員と結婚してはいけない」・・・鉄道員との結婚を考えている女友だちから相談を受けたその理由が「His heart is at his new train」(彼の頭の中は新しい列車でいっぱい)だから・・・？何じゃそりゃ？何か鉄道員に恨みでもあるんかい？！と突っ込みたくなるが・・・。本当の意味は

作者にしか分からず、もはや永遠の謎。おそらく「New Train」は「新しい女」なのではないか？あるいは、日本よりずっと早くに飛行機やモータリゼーションの波が押し寄せたアメリカの鉄道業界に対する将来的な不安といったものが「New Train」という言葉で表されたのではないかとと思うが、どうだろうか？曲調は8小節ブルースの繰り返しだが、間奏前のAh～やギターソロ、ブルースハープ、間奏後のスローボーカルで強弱をつけている。NeverはDon'tよりも強い否定形となることを今回初めて知った。是非ご一聴を。心に染みませず。

## 鉄道の仕事 なめんなよ！

大勢の命を運んでいる乗務員の仕事は勿論、各系統の各業務においても、その道のプロが責任を持って行っており、決して片手間で行えるものではないはず。

私たちが40年にも渡り、誇りを持ってきた仕事、非常に軽く、甘い考え方で扱われていることが何としても許せません！！日々緊張感を持って乗務している中で、こんなことで心身共に疲弊して良いわけがなく、乗務員は乗務に集中すべきで、反対の理由にこれ以上のものはありません！！